

## 令和4年度第1回木更津市史編集委員会 会議録

1. 会議名 令和4年度第1回木更津市史編集委員会
2. 開催日時 令和4年8月10日（水）午後2時00分～4時00分
3. 開催場所 木更津市役所朝日庁舎 多目的室B
4. 出席者 市史編集委員会委員 出席9名  
成田篤彦委員長、實形裕介副委員長、谷畑美帆委員、石和田秀幸委員  
川戸貴史委員、大関真由美委員、駒早苗委員、岩埜伸二委員、渡辺則行委員  
教育委員会事務局7名  
廣部昌弘教育長、秋元淳教育部長、重城秋子教育部次長、小高幸男文化課長  
青柳英明係長、坂口孝輔主査、矢野茜主事
5. 議題及び公開又は非公開の別  
議題1 『木更津市史』の刊行計画の変更について（公開）  
報告1 令和4年度刊行物（公開）  
報告2 木更津市史公開講座について（公開）  
報告3 木更津市史編さん部会各専門部会委嘱者（公開）  
報告4 木更津市史編さん事業におけるデジタルアーカイブの公開について
6. 傍聴人 なし

### 事務局（青柳係長）

定刻になりましたので、ただいまから本年度第1回木更津市史編集委員会を開会いたします。進行は私、青柳が務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

本日の市史編集委員会は、川戸委員、大関委員、岩埜委員、渡辺委員はリモートでのご参加となります。島立委員は欠席でございます。

会議につきましては、附属機関設置条例第6条第2項の規定により、成立しております。また、会議は公開で行いますのでご了承ください。

はじめに、成田委員長よりご挨拶を申し上げます。

成田委員長 ご多用のところ編集委員会にご出席いただき、ありがとうございます。

市史編さん事業に取り組んでから今年の12月で7年になります。

各委員のお力でデータや原稿が集積すると同時に、部会によっては、コロナ禍の影響が顕著となり、刊行計画の軌道修正が必要となってきました。

この会議では、事業計画の終了期限前に資料編・通史・総論が無理なく刊行されるように刊行計画の一部の変更を協議いたします。よろしくお願いいたします。

ます。

事務局（青柳係長）

ありがとうございました。

続きまして、廣部教育長よりご挨拶申し上げます。

廣部教育長

皆さんこんにちは。教育長の廣部でございます。

各委員の皆様におかれましては、本年度第1回目の市史編集委員会にご出席いただきありがとうございます。

ただいま、委員長からもございましたが、新型コロナウイルスにつきましては、連日250人名に迫る感染者が出ている状況ですので、このような形のオンラインでの会議になりましたが、よろしく願いいたします。

さて、昨年度は、木更津市史研究第5号、木更津市史編さんだより第6号を刊行することができました。刊行に際しては、委員の方々にもご執筆いただいております、この場を借りてお礼申し上げます。

なお、新型コロナウイルスにつきましては、感染者が増加しているところでございますが、感染対策を十分に考慮しながら木更津市史編集委員会を運営してまいり所存でございます。ご理解の程よろしく願います。

本日は、ひとつの議案を用意しております。

令和元年度から続いている、新型コロナウイルス感染症の影響により、調査等の自粛・制限を行ったため、市史編さんの進捗にも影響が出ております。前回の編集委員会で、刊行計画の見直しについて、ご協議いただきました。その結果を踏まえて、民俗部会と事務局で協議し再度調整しましたので、本日は刊行計画の変更について、ご審議のほどよろしく願いいたします。

委員の皆様には、それぞれお仕事をもちながら、大変なご苦勞をおかけしておりますが、引き続きお力添えを賜りますよう、お願い申し上げまして、挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしく願いいたします。

事務局（青柳係長）

ありがとうございました。

次に、4月の定期人事異動に伴い、篠田貞明委員に代わりまして、渡辺則行委員が就任されましたので、自己紹介をお願いいたします。

渡辺委員 【自己紹介】

事務局（青柳係長）

ありがとうございました。

続きまして、4月の定期人事異動により事務局におきましても、教育部次長が変更になりましたので、紹介をさせていただきます。

事務局（重城次長）

【自己紹介】

事務局（青柳係長）

それでは、会議に入ります。会議の前に資料のご確認をお願い致します。

事務局（矢野事務員）

【資料確認】

事務局（青柳係長）

それでは議事に入ります。議長は委員長が務めることになっておりますので、議事進行を成田委員長をお願いいたします。

成田委員長 議長を務めさせていただきます。本日の議題について、事務局の説明をお願いいたします。

事務局（小高課長）

本日の議題は、木更津市史の刊行計画の変更についてでございます。

こちらは、昨年度から継続して協議しております、民俗部会による民俗調査報告書の刊行の見直しでございます。

昨年度、最後の編集委員会において、調査報告書を9冊から議題資料に記載しております、4冊で発行する計画で協議させていただきました。

民俗部会との打合せの結果、2024年度に第1巻目を発行した後、2033年度までに4巻を発行することとなりました。

各刊の刊行の度合いにつきましては、編集期間を2年設けて3年目に刊行する流れになっております。

また、前回の編集委員会で課題となっておりました、総論の取り扱いについては、民俗部会と打合せを行った結果、第1刊発行後、同時に総論についても作業を進めていき、2033年度に同時に総論を刊行するとのことで話をまとめました。

本日、編集委員会でご意見いただきたいと思っております。

成田委員長 ありがとうございます。当初の刊行計画では、民俗調査報告書を地区ごとに9冊刊行する予定でした。

前回の編集委員での審議を踏まえて、民俗報告書は4冊、総論については報告書と並行して作業し、4冊目の刊行年度にあわせて刊行するとのことです。

このことについて、ご質問・ご意見ございますでしょうか。

成田委員長 それでは私からよろしいでしょうか。

民俗部会の方々は、町と海と山と川に分けて発刊するとのことで、魅力的でわかりやすい分け方だと思います。

そうするとはじめに、町が最初に発行予定になるのでしょうか。

事務局（小高課長）

まずは、民俗部会との打合せの結果、町の民俗とのことで木更津町とその

周辺を刊行していくと聞いております。

成田委員長 わかりました。

他にご意見のある方おりますでしょうか。

實形副委員長 刊行計画の見直しというのは、調査の遅れとかがあったと思います。

ようやく今年度は、制限をかけながら活動出来るようになってきていると思いますが、実際に民俗の調査はどれくらい進んでいるのか。また、この刊行計画に納まる形になっているのか教えていただければと思います。

事務局（小高課長）

こちらについては、民俗部会の中で会議を行っているところです。町の調査は田村委員が中心となって以前行っていましたので、田村委員が今まで出したものをまとめながら行っていくと聞いております。

實形副委員長 わかりました。

成田委員長 まずは、町の民俗をしっかりと市史研究等に投稿しながらまとめて行って、その後については、部会で統一しながら順次行っていこうという形でしょうか。

事務局（小高課長）

町の民俗については、今お話ししたとおりに進めているところです。

前回の編集委員会の後に駒委員の方から海、特に海辺の取り扱いについて、金田村・岩根村が入っているのですが、その中で貝渕と桜井の木更津町についてもご意見をいただいておりますので、その旨民俗部会に伝え、それを含めて行っていくと聞いております。補足ですが説明させていただきます。

駒委員 桜井の町が、木更津町周辺の町でつながりがあることはもちろんですが、舟関係の仕事についている人が多く、神社・仏閣関係のお祭りは、海の安全を守るというのが多いのを目の当たりにしたので、その旨を提案しました。

難しいのは、旧富岡村の調査をしている中で、小櫃川を使った舟での運搬の繋がりというのが、富岡村から河口の村にかけてつながりがあるので、そういうことを加味していただければと思っています。

成田委員長 ありがとうございます。

大関委員いかがでしょうか。

大関委員 今のご説明で刊行計画の変更については、良くわかりました。

懸念していたのは、最後の総論と報告書が一緒になることでしたが、民俗部会の方で特段問題ないとのことですので納得しました。

ひとつ教えて頂きたいのですが、4巻に分けられるとのこと、町の民俗についてはご担当の先生がいるとのことですが、それ以外もご担当の先生がいて進めているのか。その場合、今、近現代部会から情報共有があったところですが、1巻から4巻のご担当の先生にも定期的に情報共有がなされていて、

それを踏まえて総論という形でよろしいのか教えていただきたいと思います。

成田委員長 わかりました。事務局で説明をお願いします。

事務局（小高課長）

次の海の民俗につきましては、島立委員が中心となつて行つて聞いております。それ以降につきましても、部会の中で中心となる委員を決めながら行つていくと伺っております。

大関委員 ありがとうございます。総論が同時進行とのことなので気になった次第です。

成田委員長 皆さんで何か他にございますか。特にないでしょうか。

（質問・意見なし）

成田委員長 それでは、ご意見もないようですので、事務局は今日の意見等を踏まえて、対応をお願いしたいと思います。

事務局（青柳係長）

承知しました。

成田委員長 本日の議題は以上でございます。

次にその他報告事項に入ります。報告事項について事務局から報告をお願いします。

事務局（矢野事務員）

報告事項の4点について説明いたします。

1点目は、令和4年度の刊行物についてです。木更津市史編さんだより第7号、木更津市史研究第6号、木更津市史の資料編の古代編を刊行する予定です。

2点目は、木更津市史公開講座についてです。令和4年9月下旬からきさらづプロモチャンネルで、新たな技術を用いた木更津市史編さんの取り組みとして、金鈴塚古墳の石棺や真里谷城跡の立体画像など、最新技術による市史編さんの成果を紹介いたします。

3点目は、木更津市史編さん部会の各専門部会委嘱者ですが、令和4年7月1日現在で、考古部会12名、古代部会4名、中世部会7名、近世部会18名、近現代部会12名、民俗部会11名、自然部会12名の合計76名です。

4点目は、木更津市史編さん事業におけるデジタルアーカイブの公開についてです。木更津市史編さんで調査した歴史資料をインターネット上のデジタルアーカイブで公開しています。

内容は、千葉県指定有形文化財の天正検地帳などの画像と翻刻文、戦国時代の城跡である真里谷城跡、天神台城跡、要害城跡の陰陽図を無料で検索・閲覧することができます。

報告事項は以上です。

成田委員長 事務局から報告をいただきました。このことについて、質問がありましたらお願いいたします。

實形副委員長 まず、1の令和4年度の刊行物として市史研究6号とありますが、市史研究5号が前の年度で刊行されて手元に届いておりますが、図書館などでどのように配架されたのか教えていただけますでしょうか。

事務局（小高課長）

図書館の方には、CDで渡して館内のパソコンで閲覧出来るようになっております。

大関委員 ただいまの質問ともかかわりますが、3点ほど質問と確認をさせていただきたい思います。

まず、市史研究5号の話に係るところで、図書館にはCDで配架をしているとのことですが、図書館での利用の仕方や状況がわかれば教えていただきたいと思います。何故かと申しますと、私のパソコンはCDを読むドライブがありませんので、そういったパソコンをお持ちの方もいらっしゃると思いますので、媒体がCDだけで大丈夫なのか懸念を覚えたところです。

次に、近世部会からの要望をお伝えしたいと思います。

市史研究5号で、「書物・出版と社会変容」研究会木更津大会の成果が掲載されていると思いますが、近世部会の方では、市史研究5号とは別に報告書を作成すると連絡を受けていたので、それを前提としてご報告者の方にも原稿の校正をお願いしていたとのことなので、掲載先が変更になる場合は事前にご連絡いただきたかったのと、原稿に対する紙面のレイアウトがわかりづらいものになっていたのでは、ご確認をいただきたかったとのことでした。

これと関連して私の感想ですが、紙媒体で印刷する場合は、縦書きの場合は右から、横書きの場合は左からが良いのですが、PDFでそれをすると横書きは逆に読んでいかなければいけなくなり、わかりづらいので、可能であれば、縦書きと横書きが混ざりあう場合は、横書きがわかりやすいように組み替えることを業者に提案しても良いのではないかと感じました。

2点目ですが、今回の令和4年度に刊行されるものも含めて、以降すべての刊行物を紙媒体ではなく、デジタル媒体で刊行する計画があると聞いておりますが、このような変更されるようであれば、各部会で調査・編集に影響がでてくる可能性がありますので、部会に連絡をいただきたいとの要望を受けております。

3点目ですが、前回の編集委員会場で各部会の進捗の報告をいただきました。その中で民俗部会は、コロナの影響があるので今回の議題の中に入っているのは承知しておりますが、近世部会の方でも刊行計画上で資料編と通史

編の間がないので、できれば前倒ししたいとの要望がございました。

事務局にご相談したところ、部会長に相談してくれるとのことでしたがその後、どうなったのか教えていただければと思います。

成田委員長 事務局にお答えいただきたいと思います。

事務局（小高課長）

1点目の図書館の利用については、まだ確認出来ていません。

市史研究5号の中の、「書物・出版と社会変容」ですが、公開講座記録集の一環とのお伝えしておりました。レイアウト等はこれまでの記録集に合わせて作るとお伝えしていたつもりでしたが、上手く伝わっていなかつたと思います。

次の、CDでの発行による使い勝手は、ご指摘のとおり見づらさはあったと思いますので、今回は、見直しを考えていきたいと思っています。

発行の方法については、デジタル媒体での発行とのおこと以前から協議させていただいておりましたが、基本的には今後は、すべてデジタル媒体での刊行でいきたいと思っております。

紙媒体でご希望の場合は、オンデマンドによる紙媒体での発行も考えておりますが、料金は購入者の負担で考えております。

今年度発行する古代編もDVDでの刊行を進めております。

また、各部会の進捗状況で、近世部会の方でも刊行計画上で資料編と通史編の間隔が短いので見直しをとのことでありますが、いまのところ部会長との話の中では、このような予定でとのことで伺っておりますか、他の部会も含めて、今一度確認したいと思っています。

ただし、刊行物が同じ年度に集中することは避けていきたいと考えております。

成田委員長 ありがとうございます。今の回答で大丈夫でしょうか。

大関委員 ご説明ありがとうございます。

成田委員長 他に何かありますでしょうか。

實形副委員長 紙媒体をやめてデジタル媒体となると、編集、校正の進め方についても変わってきますので、データだけだと難しいので、やり方を変えていくのであれば、いろいろと準備をしていかなければならないと思います。

また、市史研究5号のPDFデータでは検索が出来ないので、今後、本編は膨大な活字の量になりますので、電子化したのであれば検索出来るようになることが必要になってくると思います。

もう一つ危惧したのが、コピーガードがついておらず、無限に複製されてしまうので気をつけなければいけないと思います。

事務局（小高課長）

校正の件につきましては、本年度、古代編の資料編を刊行するとのことで、これから進めるところですが、部会長から要望がございまして、データでの校正は難しいと聞いておりますので、紙での校正を考えております。

検索機能、コピーガードについては、本編の方につきましては、作成会社と相談しながら考えていきたいと思っております。

5号についても、コピーガード機能について考えおりましたが、今までの印刷業者では難しいとのことでしたので、考えていきたいと思っております。

成田委員長 ありがとうございます。これらのことは、部会長さんたちが一番心配して気にしていることだと思います。今後、検討して考えていかなければならないことだと思います。他に何かありますでしょうか。

石和田委員 古代の資料編は一番最初に刊行されますので、それが基本になると思います。今、電子化してもらっていて、紙媒体で校正する形になると思います。デジタル媒体なので、実形副委員長がおっしゃったとおり、検索できることを希望しています。

また、図書館にデジタル媒体で配架されることだと、例えば県立中央図書館だと各市の市史が紙媒体で並んでいるので、例えばすべての図書館は無理だと思いますが、木更津、君津、袖ヶ浦、富津の近隣市ぐらいは、オンデマンドの紙媒体で配架してほしいとの古代部会の希望があります。

検討していただきたいと思っております。

成田委員長 事務局いかがですか。

事務局（小高課長）

今のご意見を踏まえながら、今後どういった方法が良いか考えていきたいと思っております。

ただ予算の関係で、両方での刊行は非常に厳しいと思っております。

今年度の古代の資料編は、デジタル媒体のみで計画しておりますので、どのような方法が良いのか考えていきたいと思っております。

また、今年の5月から、木更津市史デジタルアーカイブとのことで資料を公開しておりますが、インターネット上での公開も視野に入れながら考えていきたいと思っております。

成田委員長 石和田委員よろしいでしょうか。

他に何か意見ございますでしょうか。

駒委員 まず、先ほどからお話が出ているCD版の市史研究ですが、CDをパソコンに入れる前に、表紙なりに目録があったほうが市民の方は、よりわかりやすいと思っております。

先ほどから費用の話が出ていますが、費用がどのくらい違うのか。費用がかかるのはもちろん紙媒体ですが、この市史を15年かけて作って誰

に見てもらいたいのか。より多くの市民や研究者、より多くの方に見てもらいとの視点はどこにあるのか。そういったところに迷いがあります。

すべてデジタル化というのは今聞いた話なので、他の部会は了解しているのかどうかお聞きしたいです。

また、フォントについて、市史は明朝体のものがほとんどですが、千葉県立博物館、県文書館の文書を見るとユニバーサルデザイン、UD デジタル文字を使っているの、見やすさを検討にいただけたらと思います。

あと、デジタル化で考えた場合、行間や欄外に小さな文字が書いてあるので、近現代部会では手が負えないので、文化課でやっていただけるのか。

ちなみに、千葉市が近現代で資料を出した時は、インデザインを使用して専門の事務局で編さんをおこなったと聞いておりますが、そういったものを検討していただけるのかどうかお聞きしたいです。

成田委員長 ありがとうございます。事務局いかがですか。

事務局（小高課長）

まず1点目、費用の割合ですが、ボリュームによって違いますが、1000頁を基準で考えると紙媒体に比べデジタル媒体の方が、3分の1から4分の1程度安くなります。

また、頒布の割合で考えると、部数により配布先は限定されていきますが、例えば市史のデジタルアーカイブ化で考えると、そういったもので作ってあげればより広く多くの利用を見込めると思います。

パソコンの利用環境もありますので、例えば先ほど図書館での紙媒体での配架とのご意見をありましたので、考えていきたいと思えます。

予算については、当初の計画の中で、市史が始まる前に、全体の予算は他市を参考にして組み立てて算定していますが、あくまでも計画ですので、市の場合予算は毎年要求しますので、こちらの希望どうりにいくのは厳しいものがありますので、限られた枠の中でどれだけ成果をあげられるか考えながら行っていきたいと思えます。

レイアウト等については、紙とデジタルでは違ってくると思えますので、今後どのようにするのか考えていきたいと思えます。

参考として、木更津市史デジタルアーカイブのサイト見ていただければと思えますが、これはADEACという会社のサイトですが、他の自治体も市史等の刊行物を載せておりますので、どのような方法が良いのか考えていきたいと思えます。

フォントについても見やすさを考えていかなければならないと思っております。

成田委員長 ありがとうございます。

他に何か意見ございますでしょうか。

大関委員 駒委員から千葉市史の話が出ましたので補足と、もう2から3点確認したいことがございます。

まず、千葉市史の方でインデザインは私が行っているのですが、恐らく普通の紙で印刷しようと思ったら、業者はインデザインで行うと思いますので、その点について、費用面以外はあまり変わらないと思います。

おそらく今回の市史研究を見ると、実際に紙で印刷するデータを作って、それが PDF になっているだけなので、入稿方法も今までの方法で行けるのかと思います。

事務局に確認したいのですが、例えば資料編、通史編も同じように行うのか。今までのお話のとおりだと、オンデマンドで別に冊子を印刷する可能性もあると思いますので、それであれば今までのままで良いと思いますが、費用の面でデジタルに決定されるのであれば、逆にデジタルでなければならない理屈をつけた方が良いと思います。

例えば、近世で言えば絵図などの画像など、PDF で埋め込まれていると使い勝手が悪いので、それは画像として見るのはどういうことなのか。デジタルで見る場合のメリットを考えた方が良いのではないかと思います。

先ほどの検索機能もそうですが、デジタルになった場合に強みを出せるコンテンツを考えていただきたいと思いました。

成田委員長 説明や要望がありました事務局いかがでしょうか。

事務局（小高課長）

今の意見を参考にしながら進めていきたいと思います。

成田委員長 他に何か意見ございますでしょうか。

谷畑委員何かございますか。

谷畑委員 皆さんの質問を聞きながらいろいろと難しいなと、改めて感じました。

私は PDF を推進するというのを学会で行っていましたが、なかなか通りませんでした。PDF と紙媒体の両方が理想と思っていましたが、費用が多くかかるのであれば、どちらかになるのかなと思います。

若い人はわりと PDF が好きで、木更津市はその流れが来ると感じていますが、市民もいろいろな方々がいますので、その辺りは難しいと感じました。

それと、金田交流センターに行ったときに、市史研究が置いてあったのを見たのですが、CD の方は見当たらなかったの、本の方が目立つのかなと思いました。

成田委員長 大変参考になりました。ありがとうございました。

その他何かございますでしょうか。

駒委員 先ほど、大関委員から絵図はデジタルの方が良いとの意見がありました。

確かにデジタルの方が拡大出来たり細部まで見ることが出来たり、利用価値があると思います。

確か千葉市だったと思いますが、絵図だけの本が出ており解説しているものがありました。今回調査している中でも絵図が結構あります。

紙媒体だけだと全部載せられないので、絵図だけで、デジタルで載せられれば迫力あるものが出来るのではないかと思います。

近現代の中では、他のものは紙媒体では良いのではないかと意見がありますので、分けて出すことは出来ないでしょうか。

ご検討する機会があればよろしく願いいたします。

成田委員長 事務局いかかでしょうか。

事務局（小高課長）

当初の市史編さんの中では、基本的には紙冊子とのことでスタートしていますが、民俗部会の方からデジタル化について提案され、編集委員会で協議して現在に至っています。

皆さんご意見を踏まえながら、どのようなものが利用し易いのか考えていきたいと思います。

成田委員長 ありがとうございます。

他にございますでしょうか。

大関委員 絵図があるからデジタルでなくてはいけないのではなく、デジタルにするのであれば、デジタルにする強みがあった方が良くとのこと訂正させていただければと思います。

絵図だけで本を出しているのは千葉市ですが、全編カラーにして、すごく重たい手にとりにくい本になってしまいますので、そういった意味では、デジタルにした方が良くのではないかと思います。

例えば、民俗編で音、声をつけるというのは、現在検討していますでしょうか。

成田委員長 事務局いかかでしょうか。

事務局（小高課長）

以前民俗編のデジタル資料という中では、登録文化財も含めた文化財について、特定のものについて映像記録も残していきたいとの提案をさせていただいております。

大関委員 デジタルにする強みの部分はそういった神楽であるとか、聞き取りの生の声とか本気でデジタル化を考えるのであれば、そういったところを視野に入れた方が良くのではないかと思います。

成田委員長 ありがとうございます。

岩埜委員何かありますでしょうか。

岩埜委員 郷土博物館金のすずから連絡があります。

当館におきましては、9月17日からの千葉県移動美術館及び11月1日からの特別展「江戸絵画の美」の開催に伴い、9月12日から12月12日の約3か月間、第2展示室の重要文化財「千葉県金鈴塚古墳出土品」については収蔵庫へ、また、その他については、第3展示室に移動いたします。

このため、この間に、市史編さん部会の皆様の確認等が必要な展示物がございましたら、収蔵庫等への移動といたしますので、9月9日金曜日までに当館へご連絡をお願いいたします。期間が短く大変申し訳ございません。

成田委員長 ありがとうございます。

その他何かありますでしょうか。

實形副委員長 自治体史で紙媒体を止めるとなると、恐らく木更津市が全国初事例ではないでしょうか。

初めてのことなので、きちんと各部会の担当者とどういった本を作るのか、もう一回練り直さないといけないと思います。

これから本編の編集が本格化して、準備することがたくさんあります。

資料編を作るとなると、近世では、まず筆者原稿を揃えますが、大勢の方で行いますので、必ず資料編の筆者原稿を作る場合は、筆者要綱で統一基準を設けて解説してもらいます。それが無いともものすごい労力を使うことになると思います。さらに、通史編となると、執筆要綱が無いとまとめる作業が大変になってしまいます。

これから本格化するにあたって、各部会と調整することが大事になってくると思います。

最後に、この新しい木更津市史は、市民と共に作っていききたいというのがありますので、CDで市史研究が出ましたので、どういう意見があるのか吸い上げながら本編の編集に活かしていくことを進めてもらえればと思います。

成田委員長 こらから重要になってくるご意見だと思います。

ありがとうございます。事務局いかかでしょうか。

事務局（小高課長）

承知いたしました。

成田委員長 ありがとうございます。他に質問がなければ本日の議事は終了いたします。議長の職を解かせていただきます。

事務局（青柳係長）

成田委員長、議事の進行ありがとうございました。

以上をもちまして、第1回木更津市史編集委員会を終了いたします。

なお、第2回市史編集委員会は、日程が決まり次第ご連絡させていただきます。

本日はお忙しいところありがとうございました。

令和4年8月10日

議事録署名人 木更津市史編集委員会

委員長 成田 篤彦